令和元年度第３回北本市文化財保護審議会

と　き　令和２年１月27日（月）
午後２時00分から
ところ　北本市庁舎３階　３－Ｂ会議室

次　　第

１　開　　会

２　あいさつ

３　諮　　問
「デーノタメ遺跡の保存及び活用について」

４　報　　告
（1）　デーノタメ遺跡の最近の動向について
①新聞報道について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料１
②日本考古学協会の要望書と回答について・・・・・・・資料２
③デーノタメ遺跡の内容確認調査について・・・・・・・資料３
④第３回シンポジウムについて・・・・・・・・・・・・・資料４

５　議　　題
（1）　デーノタメ遺跡の保存及び活用について（諮問）・・・資料５

６　そ の 他
（1）次回の日程について

７　閉　　会

資料1　デーノタメ遺跡の新聞報道について

著作権により、非公開

資料２

埋文委　第12号
2020年１月10日

北本市教育委員会
教育長　　清　水　　隆　　様

一般社団法人日本考古学協会
埋蔵文化財保護対策委員会
委員長　藤　沢　　敦

埼玉県北本市デーノタメ遺跡の保存に係る要望について

標記の件について、別添書類の如く、当該地は学術上極めて重要な内容をもつものでありますので、貴殿におかれましては、包蔵された埋蔵文化財について、適切な取り扱いをしていただくことを要望いたします。

なお、まことに恐縮ですが、当件の具体的な措置、対策については2020年１月24日（金）までに、当協会埋蔵文化財保護対策委員会委員長宛にご回答を下さるようお願いいたします。

記

一、別添書類　一通

以上

埋文委　第12号
2020年1月10日

北本市教育委員会
教育長　　清　水　　隆　　様

一般社団法人日本考古学協会
埋蔵文化財保護対策委員会
委員長　藤　沢　　敦

埼玉県北本市デーノタメ遺跡の保存についての要望書

埼玉県北本市に所在するデーノタメ遺跡は、2000年度から実施された発掘調査と内容確認調査の結果、縄文時代中期から後期の大規模集落であることがわかりました。隣接する低湿地の利活用の様相も知ることができ、日本列島の縄文時代を解明するうえできわめて重要な遺跡であると言えます。

先日刊行された『デーノタメ遺跡総括報告書』によれば、縄文時代中期後半から後期前半にかけて約1,200年間継続した大規模集落があり、その北西側に広がる低地部に堆積した同時期の自然環境を伝える良好な土壌堆積がみられるとともに、朱塗土器や漆製品（腕輪・糸）などの遺物、トチの実のアク抜きのための施設やクルミ殻などの食糧残滓の捨て場跡などの遺構、さらに食用植物種子や木材などの植物遺体が多く検出されています。すなわち、当時の人々の生活環境、さらには生活を復元するための貴重な情報が、集落跡とともに豊富に残されています。

また、こうした貴重な情報を有する遺跡の全体が、ほぼ手つかずの状態で維持されていることも、全国的に見て稀有な例ということができます。

以上のことから、一般社団法人日本考古学協会埋蔵文化財保護対策委員会は、以下のような措置が講じられることを強く要望します。

記

1　デーノタメ遺跡の史跡化に向けた計画を立案し、速やかに実行すること
2　デーノタメ遺跡の北西側低湿地の遺構・遺物の分布状況を把握し、遺跡の範囲を拡張すること
3　デーノタメ遺跡を住民共有財産として、地域づくりに係る活動等に活用する計画を策定し、実践すること

以上

北教文発第　　号
令和元年１月 30 日

一般社団法人日本考古学協会
埋蔵文化財保護対策委員会
委員長　藤　沢　　敦　様

北本市長　　三　宮　幸　雄
北本市教育委員会教育長　清　　水　　隆

埼玉県北本市デーノタメ遺跡の保存についての要望書（回答）

一般社団法人日本考古学協会の皆様におかれましては、昭和 23 年の設立以来、日本考古学の発展と文化財の保護と活用に御尽力されておりますことに、心から敬意を表する次第です。

このたび令和２年１月 10 日、近藤英夫副会長様をはじめ、埋蔵文化財保護対策委員会の小笠原永隆事務長様、松本富雄幹事様には、本市にお越しいただいた際に貴重な御意見を賜り、誠にありがとうございました。

デーノタメ遺跡は、縄文時代中期から後期の大規模集落が良好に遺存するとともに、集落が利用していた低地遺跡が隣接することから、当時の環境変化や植物資源利用の実態にかかわる多様な情報を残している遺跡です。

要望書では、こうした本遺跡の特色について全国的に見ても稀有な遺跡であるとの評価をいただき、デーノタメ遺跡が極めて重要な遺跡であるとの認識を新たにしたところでございます。

御要望につきましては、下記のとおり回答いたします。

記

１　現在、本遺跡を国指定史跡とするため、遺跡内に計画されている土地区画整理事業、都市計画道路の進捗状況を精査し、これら既存の計画と遺跡の共存に向けた方策について慎重に検討を進めており、早期に方針を定められるように努めてまいります。

２　遺跡の北西に広がる低地遺跡は、本遺跡にとって重要なエリアと理解しておりますので、今後も泥炭層の広がりを明らかにする調査を計画的に継続してまいります。

３　遺跡の重要性と魅力を市民、県民に広く発信し、本遺跡を住民の共有財産として地域づくりに活かせるよう、その仕組みづくりに努めてまいります。

今後とも、市民をはじめとする関係機関の御意見、御要望に傾聴しながら、地域の歴史資源を活かし、魅力的で住みよいまちづくりを進めていく所存でございます。貴協会には御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、デーノタメ遺跡の保存と活用について、御指導を賜りますよう重ねて願い申し上げます。

資料３

令和元年度デーノタメ遺跡内容確認調査について

１　遺跡の名称　　デーノタメ遺跡（№.１６－０３９）
２　遺跡の種類　　集落跡
３　調 査 原 因　　保存目的の内容確認調査
４　所　在　地　　北本市下石戸下１５０１、外
５　調査年月日　　令和元年１１月５日～１２月１９日
６　調 査 主 体　　北本市教育委員会
７　発掘担当者　　坂田　敏行（北本市教育委員会文化財保護課主任）
８　調 査 面 積　　約４００㎡
９　調 査 内 容

デーノタメ遺跡は、JR高崎線北本駅の南方約1．8kmの距離に位置し、行政区上は下石戸下地内に所在します。遺跡は、西に江川を、南にその支流を望む台地上に位置しており、調査区付近の標高は約21mです。調査は保存に向けた内容確認調査で、昨年度のＡブロックに引き続き、今回はＢブロックを対象として実施しました。調査面積は400㎡です。

Ｂブロックは、遺跡の東側に位置する後期集落（約 4,000 年前）に接し、標高のやや下がった低位面となっており、調査はこのエリアの利用実態を解明することを目的として行いました。

調査の結果、以下のことがわかりました。

①縄文時代後期前葉（約 4,000 年前）の遺物包含層が良好な形で保存されている。

②調査区は、後期集落に向かって北西から南東方向に入り込む浅い谷地形の東半部に位置しており、西側（谷底）に向かうに従って土層が厚くなり、遺物の密度が濃くなっていく。

③谷地形の基盤となる層は、一時的に水の影響を受けて脱色、粘土化が進んだローム層である。

④当該地では地形の傾斜に沿っておびただしい数の縄文土器が出土しているが、そのほとんどが破片であるため、縄文時代後期の人々がここを不要となった土器や石器を捨てるための廃棄場所として利用していたことが推測される。

⑤この基盤層を掘り込む土坑は3基確認されたが、竪穴住居跡は検出されていないため、居住域以外の用途で利用していたことが推察される。

⑥基盤層を掘り込む土坑では土器の集中が1か所検出され、300点以上もの土器片が出土した。これは土器片の廃棄遺構である可能性がある。

今後の課題としては、検出された土坑の性格を明らかにすることがあります。また、採取した土壌サンプルから当時の古環境などを復元することなどがあげられます。

写真１　Ｂブロック全景（西から）

写真２　作業風景

写真３　縄文土器の出土状況

写真４　打製石斧の出土状況

写真５　石鏃の出土状況

写真６　第４・５号土坑完掘状況

写真７　土器集中箇所の遺物出土状況

写真８　遺物の出土状況と土層の堆積状況

シンポジウム デーノタメ遺跡が拓く縄文の世界Ⅲ

縄文の漆工芸を科学する

令和2年2月24日（月・祝）　13:00～17:05（開場12:00）

北本市文化センターホール　※入場料無料・申込不要

【主　催】北本市教育委員会

【後　援】一般社団法人日本考古学協会・明治大学資源利用史研究クラスター

【問合せ】北本市教育委員会文化財保護課　TEL 048-594-5566

シンポジウム デーノタメ遺跡が拓く縄文の世界Ⅲ

縄文の漆工芸を科学する

デーノタメ遺跡は、1,200年にわたって営まれた縄文時代中期から後期（約5,000年前～約3,800年前）の遺跡で、特に中期の環状集落は関東最大級といわれています。
また、集落下の低地遺跡の調査では、多量の漆塗土器や植物遺体などが出土しており、集落と水辺空間がセットで残る貴重な遺跡として注目されてきました。
今回のシンポジウムではデーノタメ遺跡の特色である「漆」をテーマとし、最新の調査成果と今後のデーノタメ遺跡の活用について考えます。

【プログラム】
基調講演「デーノタメ遺跡から出土した漆器」 宮腰哲雄（明治大学名誉教授）

報　告「発見された縄文の巨大集落・デーノタメ遺跡の魅力を語る」 北本市教育委員会

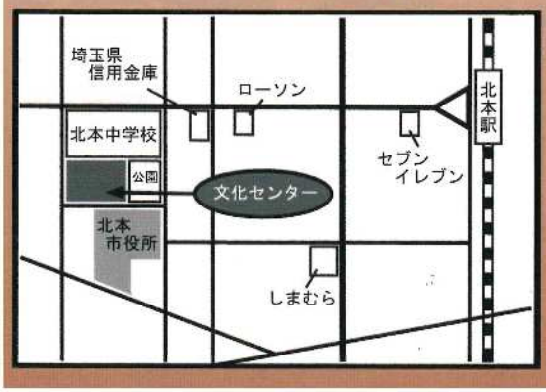
「デーノタメ遺跡・漆塗土器復元塗り作業の記録 ―漆塗り人の視線から」
小林惠美（漆工房Shara主宰）・北本市教育委員会

「デーノタメ遺跡がつなぐ世界 ～遺跡の保存活用～」秋山邦雄（歴史環境計画研究所）

※プログラム・登壇者は予告なく変更する場合がございます

パネルディスカッション
コーディネーター：阿部芳郎（明治大学教授）　パネリスト：宮腰哲雄・小林惠美・秋山邦雄 他

1 漆畑の風景（茨城県久慈郡大子町）
2 デーノタメ遺跡で出土した漆塗土器
3 小林惠美氏による土器の漆塗り作業（再現文化財）
4 デーノタメ遺跡第４次発掘調査の作業風景



令和2年2月24日（月・祝）13:00～17:05（開場12:00）
北本市文化センターホール　※入場無料・申込不要

【主催】北本市教育委員会
【後援】一般社団法人日本考古学協会・明治大学資源利用史研究クラスター
【問合せ】北本市教育委員会 文化財保護課　TEL：048-594-5566

【アクセス】北本市本町1-2-1
電車：JR高崎線北本駅西口　徒歩10分
お車：圏央道「桶川北本IC」より約3km

資料５

北教文発第　　号
令和２年１月２７日

北本市文化財保護審議会　様

北本市教育委員会
教育長　清水　隆

デーノタメ遺跡の保存及び活用について（諮問）

「デーノタメ遺跡」は、縄文時代中期～後期にかけ、約１，２００年続いた集落史跡です。集落の北側には低地遺跡が隣接し、平成２０年度の調査では、縄文時代の漆製品や食の実態を示す植物遺体が多数出土したため、全国的に注目されました。

教育委員会では、この遺跡を将来にわたって保存及び活用を図る必要があると考えています。

つきましては、文化財保護法の趣旨を踏まえ、遺跡の保存方法と活用の基本的な方針についてご審議くださいますよう諮問いたします。

北 文 審 発 第 1 号
令和２年２月　　日

北本市教育委員会
教育長　清水　隆　様

北本市文化財保護審議会
会　　長 下 村　　克 彦

デーノタメ遺跡の保存及び活用について（答申）

令和２年１月27日付け北教文発　　号で諮問のあったこのことついて、当審議会で慎重に審議した結果、歴史上重要な遺跡として認めましたので、その保存と活用について別紙のとおり答申します。

記

１　デーノタメ遺跡(№16-039)
遺跡の種類　集落跡
遺跡の時代　縄文時代中期～後期
遺跡の面積　約60,000㎡
所 在 場 所　北本市大字下石戸下630番地外

1 デーノタメ遺跡の概要と特徴

デーノタメ遺跡は北本市南部の下石戸下地区に所在し、その面積は約 60,000㎡である。遺跡は縄文中期～後期の集落遺跡で、中期集落は勝坂Ⅲ式期を上限として加曾利ＥⅢ式期に至るまで継続する環状集落である。集落の形態は長楕円形を呈し、その規模は長径が 210ｍを超え「関東最大級」である。また、後期集落は堀之内Ｉ式期から加曾利ＢＩ式期まで続き、浅い谷に沿って弧状に展開しおり、その規模は弦長で 270ｍと大規模である。本遺跡は約 1,200 年間の長期にわたって継続しており、集落は中・後期ともに地域の拠点集落として位置付けられる。

集落の広がる台地下の低地では、縄文時代中期及び後期の泥炭層が良好に遺存している。特に中期の泥炭層は全国的にも調査事例が少なく、調査区からはクルミ塚や砂道跡等の遺構群が、後期ではトチ塚や木組遺構等の遺構群が検出されている。また、泥炭層中には多量の漆塗土器を包含しているほか、豊富な植物遺体を含んでことが本遺跡の特徴となっている。

2 デーノタメ遺跡の保存と活用について

デーノタメ遺跡は集落の規模が大きく、低地遺跡を伴うために全国的にも稀有な遺跡である。こうした低地を伴う遺跡は通常の遺跡と比べて情報量が多く、特に本遺跡では集落と水場の利用形態、縄文中期から後期にいたる生業や環境の変化を一つの遺跡で明らかにできるという点で他に例を見ない。

また、遺跡そのものの遺存状態が極めて良好であり、すでに関東地方においては、こうした大規模集落遺跡が開発等によってほとんど消失していることから、希少であるといえる。

このようなことから、デーノタメ遺跡を保存し、人と遺跡をつなぐまちづくりの資源として活用を図るためには、以下の点について留意すべきである。

1 デーノタメ遺跡の保存にあたっては、国指定史跡を目指すこと。
2 指定の範囲は、文化庁が示した保存範囲を基本とすること。
3 今後の調査で遺跡の範囲が広がる場合には、保存範囲の追加を検討すること。
4 国指定の後は遺跡の特徴を活かし、縄文の里山空間を基調とした整備・活用計画を策定し実施すること。
5 遺跡の保存・活用にあたっては、住民と行政が協働し、まちづくりの拠点とすること。